

呼吸器外科（選択）

研修科	呼吸器外科（選択）
責任者	教授 光富 徹哉
指導医数	6 名
研修期間	4 週間 ～ 12 週間
受入可能人数	1 名
一般目標 (GIO)	<p>医師としての倫理観・責任感・使命感をもって行動できる。</p> <p>医療における安全管理の方策を理解し、患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行できる。</p> <p>医療チームの構成員としての医師の役割を理解し、他のメンバーと協調して問題解決にあたることができる。</p> <p>患者を全人的に理解し、患者・患者家族と良好な人間関係を確立し、予防を含む包括的なケアを提供できる。</p> <p>医師としての社会的使命を自覚し、有限である医療資源を公平に配分し、効率的に使用することができる。</p> <p>世界の医学研究の動向を理解し、最新の医学知識を修得するための英語能力を獲得し、国際保健の向上に貢献できる。</p> <p>常に自らを省みて医学の研鑽と学習に励み、自己の向上に努める。</p> <p>臨床活動の改善を目指し、見出した問題点の意義を検証し、研究課題を設定できる。</p>
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸など呼吸器領域の外科的疾患の病因、病態、臨床像、治療の原則等を理解する。 2. 検査や治療計画を立案すると共に病態の変化に応じた対応ができる。 3. 呼吸器外科的疾患の特徴を理解して指導医と共に周術期患者管理を行う。 4. 呼吸器外科手術の特異性を理解し手術介助を行う。比較的難易度の低い手術については指導医の監督下に執刀し、手術手技を習得する。 5. 医療チームの一員として多種食間の連携を行うことができる。患者や家族と意思疎通を図り指導医と共に必要な説明を行うことができる。 6. 生涯にわたる医師としてのresearch mindを体得する。

<p>方略 (LS)</p>	<p>一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと</p>
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <p>Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価</p> <p>A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 A-2. 利他的な態度 A-3. 人間性の尊重 A-4. 自らを高める姿勢</p> <p>Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価</p> <p>B-1. 医学・医療における倫理性 B-2. 医学知識と問題対応能力 B-3. 診療技能と患者ケア B-4. コミュニケーション能力 B-5. チーム医療の実践 B-6. 医療の質と安全の管理 B-7. 社会における医療の実践 B-8. 科学的探究 B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価</p> <p>C-1. 一般外来診療 C-2. 病棟診療 C-3. 初期救急対応 C-4. 地域医療</p>
<p>責任者からの一言</p>	<p>呼吸器外科学は一步進んだ専門性が要求される領域であるが、外科の基本的診療法や基本的手技も併せて学べる分野でもある。また、一般外科では経験しないことも多く学べる機会があり、将来呼吸器外科以外の分野に進んでも有益な修練が行えるものと確信する。</p>